

### 表紙(必須)

<b>消防防災科学論文</b>	
<b>1 応募者の区分</b> (該当するものを1つ残す)	B. 消防職員・消防団員等
<b>2 作品名</b>	〇〇〇〇に関する研究
<b>3 応募者</b>	
<b>(1)個人の場合</b> ・「所属」、「氏名」欄に所属と氏名をフリガナ付で記入すること。 ・応募者全員を記入すること。その際、主たる応募者を最初を書くこと。 ・記入欄が足りない時は、行を追加すること。	
フリガナ	
所属	
	フリガナ
	氏名
主たる	マルマルショウボウホンブ
応募者	〇〇消防本部
	ショウボウ タロウ
	消防 太郎
	カサイ シズエ
	火災 鎮枝
<b>(2)団体の場合</b> (団体での応募の場合、(1)個人の場合欄は記入しません) ・「団体名」欄に団体名をフリガナ付で記入すること。	
フリガナ	
団体名	

#### 4 他の公募等への応募状況

応募内容と関連した内容で、応募者が、学会発表、投稿、他の表彰への応募又は受賞をした場合は、以下の欄に記入し、当該発表資料・原稿・応募書類等を、応募作品の末尾に添付してください。

##### [口頭発表]

・消防太郎、火災鎮枝「〇〇〇〇に関する調査報告」第63回全国消防技術者会議(2016年11月25日)

##### [論文誌への投稿]

・消防太郎、火災鎮枝「住宅建物の延焼について」消防火災学会『消火』Vol.82 pp.66-71 (2016.5)

##### [修士論文]

・火災鎮枝「住宅の延焼メカニズムについて—戸建て住宅を対象とした調査・研究—」

#### 5 連絡担当者

事務連絡担当者の情報を記入してください(問合せや各種通知の送付先を記入)。\*必須

氏名*	原田 究明
所属	〇〇消防本部 △△課
住所*	〒182-8508 東京都調布市深大寺東町4丁目35番3号
Tel*	0422-44-8331
Fax	0422-44-8440
E-mail*	harada119@fri.go.jp
(該当するものを1つ残す)*	勤務先

## 概要(必須)

1 作品名	○○○○に関する研究
<b>2 要旨(280字以内)</b> *HP公表時に作品概要として使用します。	
<p>本研究は、当消防本部の所轄地域における建物火災について、鎮火に至るまでの時間と被害の規模の関係を調査し、被害拡大に寄与している要因を考察したものである。</p> <p>今回、当本部の所轄地域内の建物火災について、鎮火までに要した時間と被害の規模を調べた。</p> <p>その結果から、特に鎮火までに時間がかかった焼損面積の大きな火災は、要素1～4を一つ以上持っていることを明らかにし、それぞれの要素について対応策を示した。</p> <p>今後は、この対応策の有効性についての検証と、具体的に組織として実施するための方法を、他の部局の協力を得ながら進めていきたい。</p>	
<b>3 先行研究との相違(ある場合のみ)</b> *これまでの表彰作品事例などを確認すること。 例えば、消防庁 HP ( <a href="http://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html">http://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html</a> ) 一般財団法人全国消防協会 HP ( <a href="http://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/index.html">http://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/index.html</a> )	
<p>住宅地域の延焼性状についての研究は、木造密集地域の延焼に関する、氏姓論太「木造建物地域の延焼」(2014)等がある。また、大規模建築物に関しては、平成××年度消防庁表彰作品「都市における大規模建築物の延焼に関する研究」や、大都市防災研究所等で多くの研究がなされている。しかし、市域規模での火災の傾向について、細かく調査した研究は無かった。</p> <p>本研究は、2014年の消防・火災による論文「住宅特性と消防戦術(〇〇市における調査から)」によって得られた成果をさらに発展させ、当本部の火災統計と実際の火災内容とを照らし合わせて、建物火災の被害拡大に寄与する要因を明らかにし、その対策を提案した。</p> <p>この点は新しい成果である。また、今回の調査内容は、一地方都市の実態として資料的にも貴重であると考えられる。</p>	

## 本文(必須)

作品名	〇〇〇〇に関する研究
-----	------------

1. 研究の背景

.....

2. 先行研究

.....

3. 実態調査

.....

4. 検証

.....

5. 考察

.....

6. 結論

.....

7. 今後の課題

.....

**※記載例はあくまでも例示です**

参考文献

- (1)〇〇消防本部(2014)『平成26年版〇〇市消防年報』総務課企画係発行
- (2)苗字名前(2013)「含有水分量に応じた木材の燃焼」『燃焼材料』Vol.30(2013年9月号)pp.68-76. 日本防火出版
- (3)大都市防災研究所編(2014)『防災とまちづくり』放水社
- (4)田中太郎(2013)『都市スケールと防災』消学館
- (5)氏姓論太(2014)「木造建物地域の延焼」『建物』Vol.62(2014年)pp.42-46. 建築出版社
- (6)消防太郎・火災鎮枝(2014)「住宅特性と消防戦術(〇〇市における調査から)」『消防学術研究会資料集』(2014年秋号)pp.102-108. 消防研究会

## 図、表及び写真

(消防防災機器等の開発・改良のみ必須、他は任意)


※図、表及び写真には連番を振り、それぞれに説明書きを添えてください。

※写真に文字や矢印などの注釈を入れ込む場合は、その写真全体をグループ化してください。

(編集の際に図の注釈が欠落しないようにするため)

### 1. HP 公表用の図、表及び写真の指定について

受賞作品等になった場合、HP 公表時に作品概要として使用します。ご希望の図、表及び写真を1つ選び番号を記入してください。(図、表及び写真がない場合は不要)

HP 公表用の図、表及び写真の番号	タテ 3cm、ヨコ 3cm 以内 データを貼り付けてください
図 5	

### 2. 自由記述

**※このページは任意です**

図1 放水から鎮火までの所要時間と焼損面積

図2 覚知から放水開始までの所要時間と焼損面積

図3 A～D地区の発報から現地到着までの平均所要時間

図4 ○○市地図(国土地理院発行 5万分の1地形図○○市)



図5 延焼シミュレーションその1  
(協力:大都市防災研究所)

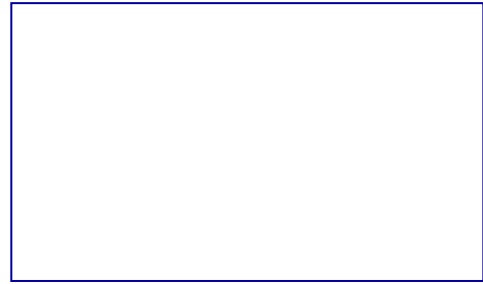


図6 延焼シミュレーションその2  
(協力:大都市防災研究所)